

波多利朗の Funky Goods

1年の充電(放電?)期間を経て再び
波多利朗が“怪しい世界”をご紹介します!

残された最後の(?)謎パ〜機
Poqet PC の逆襲! —— 天の巻



みなさん、お久しぶり。波多利朗である。といっても、最近の読者は(昔からの読者も)そんなヤツ知らんと言うだろうねえ。約1年ぶりの登場である。おっと、勘違いしないでいただきたい。今回は単発記事で、また連載が始まったわけではない。

▶ 優等生になっていく PC WAVE は
筆者にはちょっと寂しい……

1996年1月号に最後の記事を書いてから、充電期間と称して連載の「波多利朗の Funky Goods」をお休みさせていただいていた。ところがどっこい、人間というのは怠け者であり、充電期間であるはずが、放電期間のための休載となってしまった。やはり人間、ある程度のプレッシャーがないとダメになるねえ。

毎月原稿を書かなくてもよいとなったら、温泉巡りに日本酒三昧。市場調査もおろそかにして、遊び呆けてしまったわい。おかげで、この業界に対しては完全な「浦島状態」である。

PCの1年は犬の一生に匹敵するとまでいわれているこの世界——1年ぶりに帰ってきてみると、もうなにがなんだかさっぱりですう……ってな感じだ。

筆者宅には毎月本誌が送付されてくるので、一応継続して愛読させていただいたのだが、それにしてもよく続くものだと感心している。本誌の内容も昔と比べると堅実になったしねえ。怪しい記事や変なジャンクコラムなどのキワモノ的存在のページが少なくなったこと……これならまだまだ廃刊にはならんだろうな。

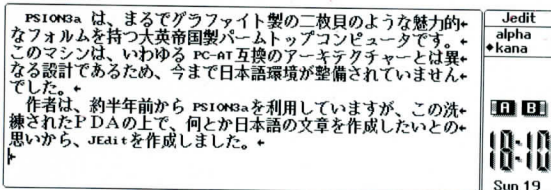
しかし創刊号、いやそれ以前のPCフォーラムの時代から愛読している筆者にとっては、だんだん優等生になっていく本誌に、安心感を覚える反面、一抹の寂しさも感じるのである……。

というわけで、この辺で本誌の品格を古(いにしえ)の怪しい世界へ戻すべく、またもや原稿を書いてしまったというわけである。健全な読者から、引っ込みコールが出る可能性も大なので、単発ということにしておく。読むだけ無駄かもしれないが、その点も了承したうえで、読んでいただければ幸いだ。



▲シーラカンスのバームトップパソコン——Poqet PC





画面1 JEditで文書編集を行う

2回に分けて、シーラカンス的パーム トップパソコンのあれこれを紹介

さて、今回取り上げるのは、またもやパームトップパソコンである。パームトップといえば、最近ではWindows CEマシン(注1)の話題でもちきりだ。

まあ、それはそれで面白いのだが、CEマシンの記事を書いても、インパクトに欠けるしね。ここはやはり、一捻りきかせて(いや、二捻りくらいかな?)、もう少し変なマシンについて書いてみよう。そこで選んだマシンは、あのPoquet PCである。

「なーんだ、あれか! なにをいまだら」って言う人、アータはえらい! パームトップ廃人君である。実際のこのマシン、最近NIFTY-Serveの一部の会議室(注2)で異様に盛り上がった経緯もあるので、ご存知の方も多いいと思われる。今回は、このシーラカンス的パームトップパソコン、Poquet PCについて、2回に分けてご紹介しよう。

前編はPoquet PCの概要と日本語化、そして後編は怒涛の単漢字変換FEP「鳳」の組み込みとインターネット接続についてご紹介する予定である。こんな記事が書けるのは、PC WAVEくらいだもんね。

題して、「残された最後の(?)謎パーム機Poquet PCの逆

襲!」である。実際は逆襲でもなんでもないけど……。

電車内でPsion 廃人の隣に座った 外国人がやおら取り出して……

ここで、初めてPoquet PCという名称を耳にする読者のために、その概要を記しておく。

筆者がPoquet PCの存在を知ったのは、いまから約2年くらい前、あのPsion Series 3a用の日本語エディタJEdit(注3)(画面1)の作者である「柴隠上人 稀留冥閑守(Kerberos)(注4)」氏から情報を得たことによる。

なんでも、氏が中央線に乗車して、Psionを使って当時まだβ版だったJEditでメモをポコポコ書いていると、隣に謎の外国人が座ったそう。Psionでメモを取る氏を横目でチラリと見たその外国人、すかさず今まで見たこともないマシンを取り出して使い始めた。そのマシンのLCD画面上部には、目にも鮮やかな赤いストライプと「THE POQUET PC」と書かれたロゴが輝いていた!……そうである。

当時からパームトップ廃人であった氏にとって、未知のパームトップパソコンの出現は大きな驚きであった。メーカーとマシン名を聞き出した後、入手方法についての調査を開始したのである。

結局、とある雑誌から情報を入手し、アメリカにある「California Digital」(注5)(写真1)というコンピュータショップで購入した。購入価格は\$189——なんと189ドルですよ!

まあ、旧型のマシンだから安いのは当たり前だが、189ドルでIBM互換のマシンが手に入ってしまうとは! このマシン、発売当時の正価は1450ドルであったそうだから、まさに怒涛のディスカウントといえる

注1) Windows CEマシン
現在発売されているWindows CEマシンを見ると、筆者はHANY98を思い浮かべてしまう。あのボタンタイプのキーボードなど、雰囲気こそっくりなのである。

注2) NIFTY-Serveの一部の会議室

FSNOTEの会議室12番「パソコン/パソコン、サブノート、PalmTop」がそれだ。ここでは、かなりマイナーで病的な謎パームが出てきて、大変面白い。

注3) JEdit

英国製PDA、Psion Series 3、3a上で動作する日本語エディタ。

Psionは独自OSで動作しているため、通常のMS-DOSベースのプログラムは動作しない。JEditは、このPsionのOS上で、日本語文書が作成できるフリーソフトであり、NIFTY-Serveの下記フォーラムに登録されている。

システムノートフォーラム(FSNOTE)
データライブラリ2番 フリーソフト・データ(一般)
246番 J3ED1A1B.LZH
Psion Series3用日本語エディタ

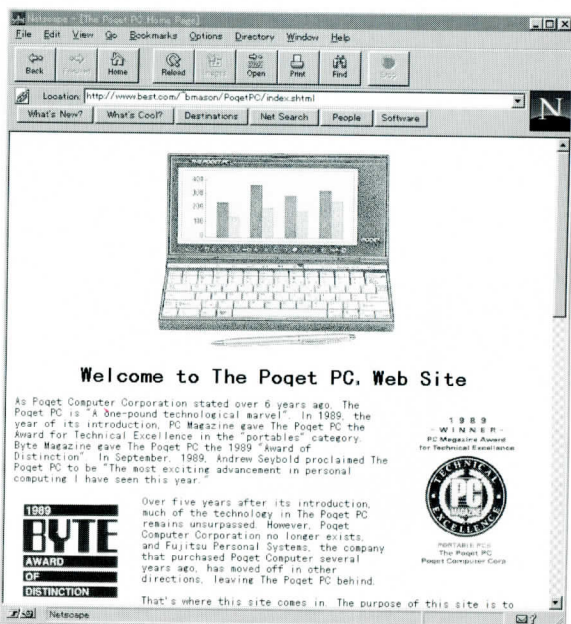
245番 ELISAM10.LZH
Psion Series3用8ドット
恵梨沙フォント

282番 JED14V2G.LZH
Psion Series3a用14ドット
日本語エディタ

283番 JED24V2G.LZH
Psion Series3a用24ドット
日本語エディタ



写真1 California Digitalの通販カタログ



画面2 Poquet PCのホームページ

だろう。

Poqet PC が登場したのは1989年のことである。このマシンはCGAのLCD画面を持ち、タッチタイピングが可能なキーボードとPCMCIAカードスロットを装備した、パームトップパソコンの原型とも呼べるマシンである。この製品には、その後に出現する多数のパームトップパソコンの基本的な構成が示されている。

マシンアーキテクチャーはIBM PCコンパチブルであり、IBM用のDOSソフトが使用できる。1989年9月には米国PCマガジン誌が、携帯端末部門のTechnical Excellence 賞を授けている。

Poqet PC を製造・販売したのは、Poqet Computer Corporation 社だが、発売後まもなく Fujitsu Personal Systems社に買収されてしまい、経営方針の変更から Poqet PC は見捨てられてしまった。

しかし根強いファンはいまだに多く存在し、Poqet PCのホームページには多くの情報が掲載されている。

FAQ など有効な情報が得られる Poqet PC のホームページ

その Poqet PC のホームページ (画面2) だが、URL は下記のようにになっている。

<http://www.best.com/~bmason/poqetPC/>

ホームページの内容は、ご覧いただければわかるが、FAQ、メーリングリスト、マニュアルと、一通りのサポートが得られるようになっている。このホームページを見ていると、Poqet PCファンの熱意(あるいは、魔人のこだわり?)といったものが、如実に伝わってくる。なかでも FAQ コーナーと Poqet PC 用ソフトウェアアーカイブのコーナーは、このマシンを使い込むうえで非常に有効である。

このホームページには、A little Fun……というページがあって面白い。ここには、Poqet Museum という、Poqet PC 発売当時の広告がアップロードされている。なかでも、「How Do You Measure A True Giant?」と題した比較広告には、当時のマシンと Poqet PC とのサイズ、重量、バッテリー持続時間の比較を行っており、時

代を感じさせる。

また、このホームページには、現在同マシンを購入することが可能なショップであるカリフォルニア・デジタル (California Digital) へのリンクも張られており、購入の際には重宝する。

なお、カリフォルニア・デジタルのホームページの URL は、下記のとおりである。

<http://www.cadigital.com/>

MS-DOS は Ver.3.30!——歴史を 感じさせるハードウェア構成

Poqet PC 本体のデザインは、黒地に真紅のストライプが入った古風なもので、ケース表面の塗装もソフトに仕上がっている。外観は、その後に登場する富士通オアシスポケットを髣髴とさせる。

しかし、本体からLCDパネルへの配線ではフラットケーブルがむき出しになっているといったように、若干つくりの粗さも感じられる (写真2)。筆者が入手した Poqet PC の裏面には、以下のような表記が見られた。

POQET COMPUTER CORP.
Sunnyvale, CA 94086
Made in Japan
Serial No. 016400030697

MODEL NO. PQ0164

CPU には、IBM The PC や IBM PC/XT と同クラスの 80C88 (7MHz) を使用している。内蔵メモリは、システム RAM として 512KB、ROM として 640KB を使用しており、ROM には MS-DOS Ver.3.30 と各種アプリケーションプログラムが格納されている。MS-DOS のバージョンからも、この製品の歴史が感じられる。

キーボード (注6) は 77 キーの QWERTY 配列で、キーボードの大きさは、謎パー機 PTV-30 のそれとほぼ同じだ (写真3)。明確なキークリック感があるため、タッチタイピングは容易なほうだといえよう。

Ctrl キーは A キーの隣にあり、この点は日本語キーボードを使い慣れている人にとってはなじみやすい。

注4) 柴陽上人 稀瑠冥閣守氏

筆者の知人。他人にはいっさい身分を明かさない変人プログラマー。

注5) California Digital

アメリカにある、ちょっとオタクキーなパソコンショップ。知名度は低いが、レアなグッズを集めており、ジャンク系廃人にはたまらない魅力がある。今回ご紹介する Poqet PC は、同店の看板商品となっている (と思う……)。

ここではいまでもあの Digital Research 社の CP/M を 9 ドルで売っていたり、CP/M ベースの Xerox 製ラップトップパソコンを 39 ドルで販売していたりする。この Xerox のパソコンは、当時の正価が 2995 ドルであったそう。これらのグッズも同時に購入しているので、機会があればご紹介したい。

以下に、California Digital 社の所在地を示す。
California Digital, Inc.
17700 Figueroa Street
Gardena, CA 90248
U.S.A.

Tel: 310-217-0500
Fax: 310-217-1951

注6) Poqet PC のキーボード

キーの操作音はかなり大きいほうなので、静かな場所でのタッチタイピングでは、クリック音が若干耳障りだ。

なお、キーボードは IBM PC/XT 互換である。

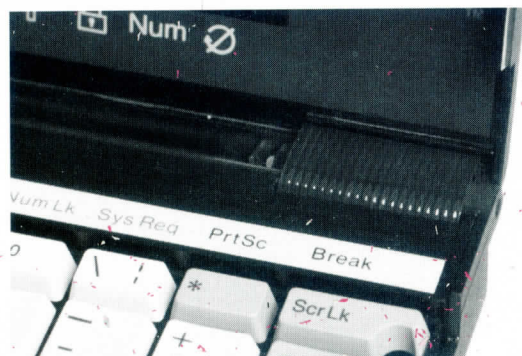


写真2 むき出しになっているフラットケーブル

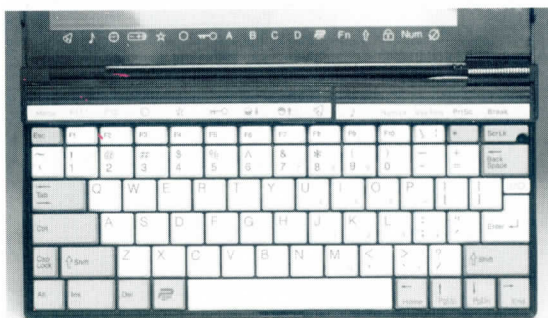


写真3 Poqet PC のキーボード





写真4 メインバッテリーの格納状況

リセットキーは、バックスペースキーの所にあり、いわゆるシャープペンリセットである。ファンクションキーはF1～F10まで10個あり、F10キーの隣にバックスラッシュキーが配置されている。

スペースバーの左横にはPoquetキーがあり、このキーとファンクションキーを併用することで、LCDの濃度調節、パワーマネジメントのON/OFF、画面モードの変更など各種の設定ができる。これらの設定キーは、ファンクションキー上部に絵文字で書かれている。

メインバッテリーは、F1～F8キーの上部に格納されており、単三乾電池2本を使用する(写真4)。バッテリーの正確な持続時間は不明だが、資料によると100時間程度の使用が可能だそう。サブバッテリーは、内蔵されていない。

Poquet PCのLCD画面は、かなり特殊な仕様となっている。すなわち、起動時にはMDA(モノクロ・ディスプレイ・アダプタ)互換モードとなっており、ファンクションキー操作によりCGA互換ディスプレイとなる。この切り換えは、Poquet+F3キーで行う。LCDの品質は、製造時期が古いこともあって、あまりよいとはいえない(画面3)。

とくにコントラストが弱く、バックライトも装備されていないため、暗いところでは若干読みにくい。しかし、LCDの有効画面エリアは173mm×66mmだ。他の謎パー機LC-8620やPTV-30と同程度の領域があり、サイズ的には申し分ない。

LCD画面下部には、システムの状態を示すステータ

注7) Poquet Serial/Modem Cable

このケーブルは別売しておらず、Poquet PC本体購入と同時に1本だけ頒けてくれる。



画面3 Vzで文章を表示する

スインジケータが設けられている。ここではバッテリーの状態やPCカードの状況、シフトキーやファンクションキーの押し下げ状況などをモニタすることができる。前述したディスプレイのモードも、ここで確認できる。

Poquet+F3キーを押してCGA互換モードに設定すると、「○」印の付いたインジケータが点灯して、CGA互換ディスプレイモードになったことがわかる。

PCカードスロットは、通常のパーソナルコンピュータに採用されているスロット式ではなく、トレイ式を採用している(写真5)。カードトレイは左右両側に2基設けられており、トレイを引き出すと内部の基板がむき出しになる。

しかし、このスロットではType 1のカードしか使用することができないため、フラッシュメモリカードやモデムカードは利用できない。実際に使用できるカードは、容量が2MBまでのSRAMカードだけとなる。

拡張I/Oポートのコネクタ形状は特殊である(写真6)。本体背面には、専用の拡張ポート用コネクタが設けられており、ここに各種ケーブルを接続して使用する。

デスクトップPCとシリアルインターフェイスで接続したり、モデムを接続してパソコン通信を行う場合には、ここにPoquet Serial/Modem Cable(注7)という、専用の別売りケーブルを接続する(写真7)。このケーブルは、Poquet PC本体背面にある専用のコネクタを、D-Sub25ピンのRS-232C標準コネクタに変換する機能を持っている。

Poquet PCとパソコン本体とを接続する場合には、Poquet Serial/Modem Cableとパソコン本体とをクロスRS-232Cケーブルで接続したうえで、ケーブルに付属するPoquet Linkというソフトウェアを用いて、データ転送を行う。

またモデムを接続する場合には、直接ケーブルをモデムのRS-232Cコネクタに接続すればよい。

このほかにも、プリンタケーブルと外付けフロッピーディスクケーブルが用意されており、どちらもこのコネクタに接続して使用する。プリンタケーブル(Poquet Printer Cable)は、現在でも79ドルでカリフォルニア・デジタルから購入可能である。しかし外付けのフロッピーディスクは、現在では入手することが非常に困難だ。

● Poquet PCのドライブ構成と、起動シーケンス

Poquet PCのドライブ構成を、以下に示す。

- A: PC カードスロット (左側)
- B: PC カードスロット (右側)
- C: 内蔵ROM ディスク (約520KB)
- D: 内蔵RAM メモリ (約22KB)

マシンを起動すると、もしDドライブにconfig.sysとautoexec.batファイルがない場合には、内蔵ROMに格納されている、デフォルト設定の両ファイルが自動的にDドライブにコピーされ、それを参照して起動する。

この場合、英語環境のMS-DOSが起動することになる。動作環境をカスタマイズするには、Dドライブ上のconfig.sysファイルとautoexec.batファイルを修正すればよい。このことを前提とした設計となっているため、Dドライブは容量の小さなRAMメモリとなっている。

● Poqet PC の仕様

以下に、Poqet PC の仕様を示す。

- ・モデル名称：Poqet PC Model PQ0164
- ・メーカー：Poqet Computer Corp.
- ・CPU：80C88 (7MHz)
- ・搭載メモリ容量：ROM 640KB、RAM 512KB
- ・ディスプレイ：モノクロ液晶 640×200 ドット
 - * CGAとMDAを選択可能
 - * アクティブエリア：173mm×66mm
- ・キーボード：QWERTY配列77キー・キーボード
- ・I/Oポート：本体背面の専用拡張スロットに専用ケーブルを接続して使用する
 - Poqet Serial/Modem Cable を用いることにより、シリアルポートとして使用できる
- ・本体重量：450g (乾電池を含む)
- ・バッテリー：単三乾電池2本 (持続時間：約100時間)
- ・PCMCIA：PCMCIA Type 1 1 スロット実装
 - * 容量2MBまでのSRAMカードが使用可能
- ・外形寸法：223mm(W)×109mm(D)×25.4mm(H)
- ・内蔵ソフトウェア：MS-DOS Ver.3.30 ROMバージョン
- ・オプション：シリアル・モデム・ケーブル
 パラレル・プリンタ・ケーブル
 外付けフロッピーディスクドライブ

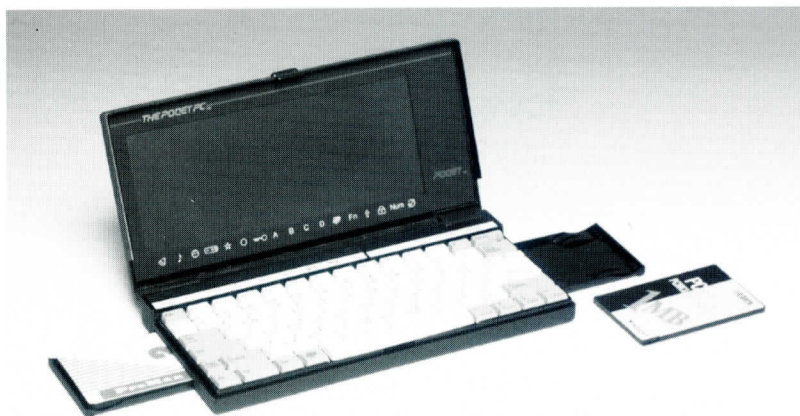


写真5 トレイ式のPCカードスロット

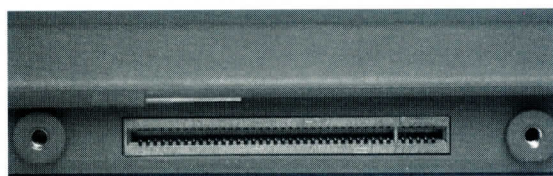


写真6 本体背面のI/Oポートコネクタ

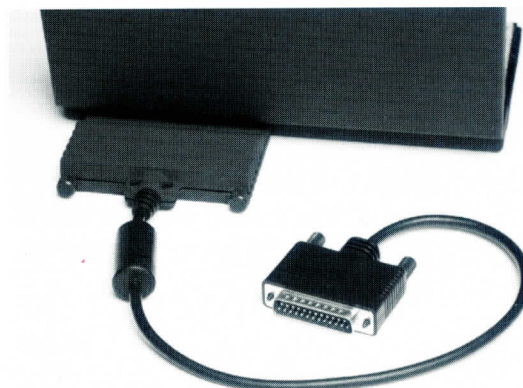


写真7 Poqet Serial/Modem Cable を接続したところ

きる。この「鳳」の導入については、後編で詳細をご報告する予定である。今回は、日本語表示までのDOS/C化と、英語環境下で動作するPoqet PC専用の日本語エディタ、PEDについてご紹介しよう。

● 日本語化の手順

Poqet PC上で日本語を表示することは可能である。日本語化を行う場合には、各種ドライバやフォントを格納しておく必要がある。Poqet PCの内蔵メモリは512KBしかなく、すべてシステムメモリとして割り当てられているため、日本語化を行うにはSRAMカードを導入する必要がある。

1MBの容量のSRAMカードでも環境を構築できるが、ここでは2MBのSRAMカードを使用する。なお、



▶ Poqet PC 上での日本語表示——DOS/C化を実現する

Poqet PCは、CPUに80C88を使用したマシンである。したがって、アプリケーションソフトウェアも、8086命令のみを使用したものでなければ動作しない。このことが日本語化、すなわち完全なDOS/C化を行ううえで障害となっている。

すなわち、Poqet PC上で日本語を表示することは可能なのだが、日本語入力を行うFEPの導入がむずかしい。現状では、市販のFEPで動作するものはない。

フリーソフトウェアでは、「鳳」というFEPが使用で

現在筆者が確認した使用可能なSRAMカードは、以下の2種類である(写真8)。

注8)I/Oデータ機器 1MB
SRAM カード
秋葉原のパソコンショッ
プで購入できる。

注9)PreMax 2MB SRAM
カード
アメリカの携帯パソコン
通販ショップ、EduCALCで
購入することができる。
1MBが139ドルで、2MBが
229ドルとなっている。
EduCALCの所在地は、下
記のとおりである。
27953 Cabot Road
Laguna Niguel, CA 92677
U.S.A.
Tel:714-582-2637
Fax:714-582-1445

- ・I/O データ機器
1MB SRAM カード(注8)
「PCS-1M PCMCIA SRAM Card」
- ・PreMax
2MB SRAM カード(注9)
「SM002M-NN」

以下に、日本語化の手順を示す。

① SRAM カードをフォーマットする

Poqet PC 上で、SRAM カードをフォーマットする。
その手順は、以下のとおりである。

《フォーマットソフトを入手する》

1MBのSRAMカードをフォーマットする場合には、
本体のROMに内蔵されているformat.comを使用すべ
ばよい。しかし2MBのSRAMカードをフォーマット
する場合には、専用のフォーマットソフトを入手する
必要がある。

この2MBカードのフォーマットプログラムは、前
述したPoqet PCのホームページからダウンロード
することができる。アドレスは、以下のとおりであ
る。

<http://www.best.com/~bmason/PoqetPC/software.html#2MFORMAT>

以下は、2MFORMAT.COMのドキュメントの一部
である。

2MB SRAM Card Format Utility
The format program in the Poqet PC "Classic"
(Model PQ-0164)cannot format SRAM cards
largerthan 1 MB. The following format program
corrects that situation.
2MB Format Utility "Readme" file(2MFOR
MAT.TXT)2MB Format Utility(2MFORMAT
.COM-6KB)

ダウンロードした2mformat.comは、Dドライブに
格納しておく。

《パワーマネジメント機能をオフにする》

Poqet PC 上でSRAMカードをフォーマットする場
合には、Poqet PCのパワーマネジメント機能をオフに
する必要がある。これを実行しないとCard Errorとな
り、フォーマットできない。

具体的な方法は、Poqet+F3キーを押してLCDディ
スプレイの星印(☆)の表示を消去してから、フォー
マットコマンドを実行する。

《フォーマットを行う》

右側のトレイにSRAMカードを入れた場合は、

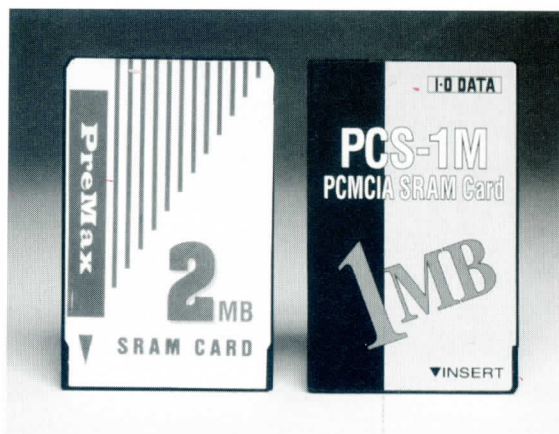


写真8 2MB (左) と1MBのSRAMカード

format a:

としてSRAMカードをフォーマットする。

②必要なファイルをSRAMカードへコピーする

SRAMカードに必要なファイルをコピーする。この
場合、本体左側のPCカードスロットにSRAMカード
を挿入した場合、カードのドライブ名称はAドライブ
となる。以下に、使用するファイルと、その格納場所
を示す。

《フォントファイルのコピー》

今回日本語表示のために使用するフォントは、
HP200LX日本語化キットに入っているオカヤシステ
ムウェアのフォントである。このフォントには、16
ドット、11ドットおよび8ドットの3種類があるが
(画面4)、SRAMカードの容量に余裕がある場合には
3種類のフォントをインストールする。

しかし1MBの容量の場合、これら3種類のフォン
トをすべてインストールすることは困難であるため、
必要なフォントのみをコピーする。ここでは、2MBの
SRAMカードを使用するものとする。

AドライブにFONTディレクトリを作成し、そのな
かに下記ファイルをコピーする。

LXHN16X.FNT	16ドット半角フォント
LXZN16X.FNT	16ドット全角フォント
LXHN11X.FNT	11ドット半角フォント
LXZN11X.FNT	11ドット全角フォント
LXHN08X.FNT	8ドット半角フォント
LXZN08X.FNT	8ドット全角フォント

《日本語化ドライブのコピー》

日本語表示を行うにあたり、今回はフォントマネー
ジャとしてfontman.exeを、またCGA用ディスプレイ
ドライブとしてyadc.exeを使用する。

AドライブにDOSCディレクトリを作成し、そのな
かに下記ファイルをコピーする。



FONTMAN.EXE	フォントマネージャ
FONTMAN.INI	フォントマネージャの環境設定ファイル
YADC.EXE	CGA用ディスプレイマネージャ
YADC.INI	CGA用ディスプレイマネージャの環境設定ファイル
PANSI.SYS	ANSIドライバ互換のドライバ
DBCSDUMY.SYS	DBCS対応に見せかけるドライバ

各ソフトウェアの入手先を、下記に示す。

- ・ fontman.exe
Hewlett-Packard PC Users'Forum (FHPPC)
データライブラリ 7 番 (HP100&200LX)
77 番 FMAN12A.LZH fontman1.2.9
- ・ yadc.exe
Hewlett-Packard PC Users'Forum (FHPPC)
データライブラリ 7 番 (HP100&200LX)
85 番 YADC09C.LZH yadc0.9.6
- ・ pansi.sys
Hewlett-Packard PC Users'Forum (FHPPC)
データライブラリ 7 番 (HP100&200LX)
84 番 PANSI094.LZH ANSI.SYS 代用品 (SYS&COM)
- ・ dbcsdummy.sys
IBM& 互換機 PC Professional Users'FORUM (FPCUPRO)
データライブラリ 6 番 DOS/V 専用(1)
274 番 DBCSDUMY.LZH

③環境設定ファイルを編集する

日本語化を行うソフトウェアの環境設定ファイルを編集する。

編集を行うファイルはfontman.iniファイルで、下記のように修正を行う。

```

・ FONTMAN.INI
;
; fontx2 フォント定義
;
[fontx2]
a:¥font¥l\hxn16x.fnt
a:¥font¥l\xzn16x.fnt
a:¥font¥l\hxn11x.fnt
a:¥font¥l\xzn11x.fnt
a:¥font¥l\hxn08x.fnt

```

a:¥font¥l\xzn08x.fnt

④日本語環境を構築する

Poqet PC では、Dドライブ上のconfig.sysとautoexec.bat ファイルを参照して起動する。そのためにDドライブは、22KB 程度の非常に小さな RAM ドライブとなっている。config.sysファイルとautoexec.batファイルの内容を、下記に示す。

```

・ config.sys ファイル
files=20
buffers=20
device=a:¥dos¥dbcsdummy.sys
device=a:¥dos¥fontman.exe -b5-fa:¥dos¥fontman.ini
device=a:¥dos¥yadc.exe -b+ -bd -v70 -h11
device=a:¥dos¥pansi.sys /k
・ autoexec.bat ファイル
@echo off
prompt $p$g
path=a:¥;a:¥dos;a:¥tools;a:¥vz;c:¥;
set term=ansi
OS$DT
OS$DT/S
VNA
a:

```

dbcsdummy.sys は、MS-DOS Ver.3.x のように DBCS に対応していないDOSを、DBCSに対応しているように見せかけるためのドライバソフトであり、MS-DOS Ver.4.x以降でしか動作しないDOS/V用ディスプレイドライバおよびその互換ドライバを、MS-DOS Ver.3.x 上で動かす際に使用する。

また、DOSCディレクトリにフォントサイズ変更用バッチファイル、chev.batを作成しておく。chev.batの内容は、下記のとおりである。

```

・ chev.bat
@echo off
if "%1"=="jp" goto jpn
if "%1"=="JP" goto jpn
if "%1"=="jc" goto cjp
if "%1"=="JC" goto cjp
if "%1"=="jl" goto ljpn
if "%1"=="JL" goto ljpn
if "%1"=="us" goto usa
if "%1"=="US" goto usa
goto man

:man

```



echo USAGE: CHEV JP — switch to VTX Japanese mode(11dot)
 echo USAGE: CHEV JL — switch to VTX Japanese mode(16dot)
 echo USAGE: CHEV JC — switch to CGA Japanese mode(8 dot)
 echo USAGE: CHEV US — switch to English mode(80 × 25)
 goto end

:jpn
 yadc-jp-v70-h11
 goto end

:cjp
 yadc-jp-v73
 goto end

:ljp
 yadc-jp-v70-h16
 goto end

:usa
 yadc-jp-v73
 yadc-us-v3
 goto end

:end

日本語環境を構築したAドライブのディレクトリ構成を、以下に示す。

A:¥

FONT LXHN16X.FNT
 LXZN16X.FNT
 LXHN11X.FNT
 LXZN11X.FNT
 LXHN08X.FNT
 LXZN08X.FNT

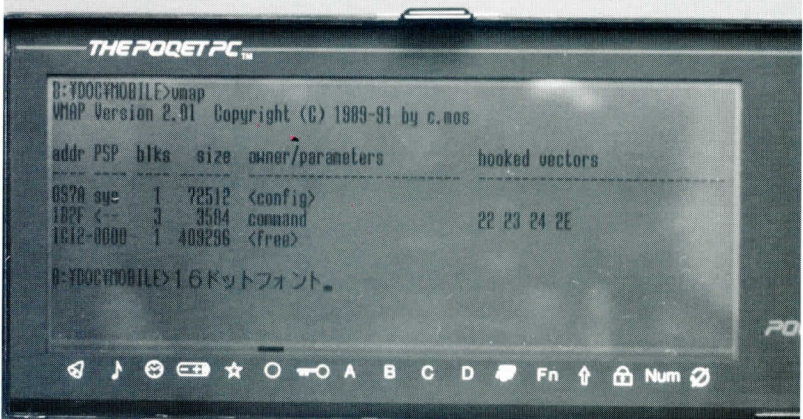
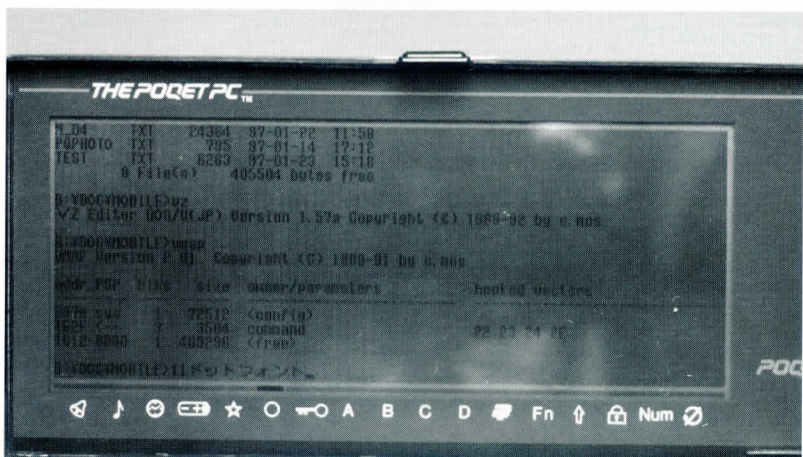
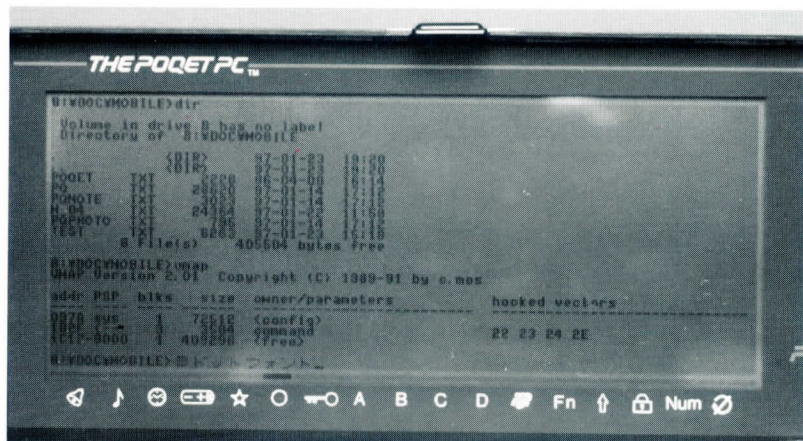
DOSC FONTMAN.EXE
 FONTMAN.INI
 YADC.EXE
 YADC.INI
 PANSI.SYS
 DBCSDUMY.SYS
 CHEV.BAT

⑤マシンを起動する

以上の設定が終了した時点で、マシンをリセットすれば、日本語表示の可能な環境が構築できる。ただし、Poquet PC特有の仕様から、起動時にマシンのモードを若干変更する必要がある。

Poquet PCでは、起動時にディスプレイモードが自動的にMDA(モノクロ・ディスプレイ・アダプタ)互換モードとなる。

日本語化で使用したドライバ類は、すべてCGAディスプレイを対象としており、MDA互換では使用できない。したがって、システム起動時に下記の操作を行って、手動でCGAモードに切り換えなければならない。



画面4 日本語表示のためのフォントサイズは3種類——上から16ドット、11ドット、8ドットだ

Ctrl+Alt+Delキーでリセットをかけた後、Poqet+F4キーを押して、マニュアルで画面モードをCGAに切り換える。タイミングとしては、リセットをかけてすぐに続けてPoqet+F4キーを押せばよい。画面モードがCGAに切り換わると、LCDのステータスインジケータの「○」の所がアクティブとなる。

この操作を行わなければ、yadc.exeが組み込まれた時点で画面にはなにも出力されなくなり、ハングアップに似た症状となってしまいます。Poqet PCでは起動時に画面モードをCGA固定にすることができないため、日本語化を行った場合、リセット時には上記の操作が必須となる。

以上の処理により、Poqet PC上で日本語を表示することが可能となる。

ME-386などのバームトップパソコンであれば、これにWX2などの市販のFEPを組み込むことによって、日本語の入力が可能となるが、本機の場合には、現状では市販のFEPが動作しない。FEPとしては後編でご紹介する予定の「鳳」が使用できる。

⑥ Vz エディタを導入する

日本語表示環境が構築できたので、次にエディタを導入する。

エディタとしてはVzエディタ (Ver.1.57a) が使用できるが、Poqet PC ではCPUが8088であるため、そのままでは実行できない。理由は、Vzエディタ (Ver.1.57a) がIntelの80186モードでアセンブルされているためであって、8086 (8088) CPU では実行不可能な命令を使用していることによる。

方法としては、Vzエディタを8086マシンでも動作可能にする差分プログラムを用いて、パッチを当てるという手段を採る。

以下に、その方法を示す。

《Vz エディタ (Ver.1.57a) を入手する》

Vzを8086マシンで動作させるためには、Vzのバージョンが1.57aであることが要求される。バージョンが1.57である場合は、まず1.57aにバージョンアップするためのパッチ処理を施さなければならない。このパッチプログラムは、NIFTY-Serveの下記フォーラムにアップロードされている。

IBM& 互換 PC Professional Users'FORUM
(FPCUPRO)

データライブラリ 3 番 DOS アプリケーション
(通信、エディタなど)

178 番 vz157a.lzh VZJ31,VZIBM 等 1.57→1.57a
差分

上記のパッチプログラムはバイナリの差分ファイルであり、Ver.1.57のVzバイナリファイルをbupdateを使用してVer.1.57aにアップデートする。

《8086 マシンでも動作するようにパッチを当てる》

前述したように、Vz Ver.1.57aは80186モードでアセンブルされているため、そのままでは8086(8088)マシンでは動作しない。そこで、8086(8088)マシンでも動作するパッチを当てる。このパッチプログラムは、NIFTY-Serveの下記フォーラムにアップロードされている。

システムノートフォーラム (FSNOTE)

データライブラリ 2 番 フリーソフト・データ (一般)
122 番 VZDOSV86.LZH Vz(DOS/V)8086 対応
差分

また、vzibm.defおよびvzibmj.defの両ファイルを編集し、下記のように設定する。

FK- ;Keyboard type: 83/84(-) 101/102(+)

Poqet PC のキーボードは、PC/XT 互換であり PC/AT 互換ではないため、上記の設定が必要となる。

以上の処理により、8086 (8088) マシン上で動作するVzができる。このパッチを当てたVzプログラムを、Poqet PC 上にコピーして使用すればよい。

英語環境下で日本語入力が可能な CGA 対応エディタ「PED」の導入

Poqet PCでは、使用しているCPUの関係で、FEPとして動作が確認されているものは、フリーソフトの「鳳」のみである。ところが、英語環境下で日本語の入力が可能なCGA対応のエディタがあり、それを使用すれば日本語のメモを取ることが可能である。

PEDと呼ばれるこのエディタは、純粋な英語環境下で動作するため、前述したような日本語環境の構築はまったく必要ない。

このPEDは、筆者の知人であり世捨て人でもある柴隠上人 稀瑠冥閻守氏 (Kerberos)氏作成のPsion3a用日本語エディタ「JEdit」を、これまた筆者の知人であるMadame Fatale 氏^(注10)が移植したものだ。

柴隠上人 稀瑠冥閻守氏もかなり変な人であるが、Madame Fatale氏も、それに輪をかけた変人である。氏は日本語化されていないバームトップ機を見ると、無性に日本語化したくなるといった悪い癖がある。

今回紹介する PED には Poqet PC 専用のもの (PEDPR 110.LZH) のほかに、CGA-PC 汎用のもの (PEDCR 110.LZH)^(注11)があり、いずれも Madame Fatale 氏が作成している。

今回は、Poqet PC 専用の PED を使用する。以下に、PED の導入方法について述べる。

①必要なファイルを手入手する

PEDを動作させるためには、下記のプログラムが必要であり、NIFTY-Serveからダウンロードが可能であ

注10) Madame Fatale 氏
柴隠上人 稀瑠冥閻守氏同様、バームトップ魔人である。昔のバームトップパソコンを日本語化して喜ぶという、変な趣味を持っている。筆者の知り合いであり、NIFTY-Serve FSNOTE 会議室によく出没している。

注11) CGA-PC 汎用のもの (PEDCR110.LZH)
CGA画面を持つIBM互換バームトップ機で動作する、汎用のエディタ。

日本語環境は必要なく、英語環境下での動作が可能である。一方、Poqet PC 専用の PED (PEDPR110.LZH) は、これを他のCGA/バームトップパソコンで動作させようとすると、ハングアップする。

る。以下に、必要なソフトウェアを示す。

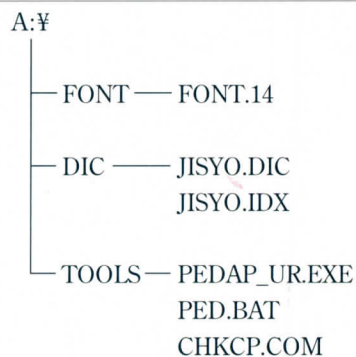
- ・日本語エディタ PED 本体
システムノートフォーラム (FSNOTE)
データライブラリ 2 番 フリーソフト・データ (一般)
284 番 PEDPR110.LZH Poqet 日本語 Editor: RAMfont
- ・14 ドットフォントファイル (FONT.14)
HP95LX 用日本語エディタ「jmemo」の 14 ドットフォントファイル
所在：NIFTY-Serve FHPPC LIB15 旧 FYHP LX 関係ソフト
#17 FONT14.LZH
- ・かな漢字変換用辞書ファイル (JISYO.DIC JISYO.IDX)
HP95LX 用「jmemo」のラージ辞書ファイル
所在：NIFTY-Serve FHPPC LIB15 旧 FYHP LX 関係ソフト
#18 JISYO_L.LZH

② ファイルをコピーする

上記ファイルを、Poqet PC の SRAM カード上にコピーする。ここでは、SRAM カードが A ドライブとして認識されているものとする。

- ・TOOLS ディレクトリを作成し、PEDPR110.LZH をコピーし展開する。
- ・FONT ディレクトリを作成し、FONT14.LZH をコピーし展開する。
- ・DIC ディレクトリを作成し、JISYO_L.LZH をコピーし展開する。

また、PED 本体が格納されているディレクトリ (この場合はTOOLSディレクトリ) にパスを通しておく。以上により、ディレクトリ構成は下記ようになる。



③ PED を起動する

PED を使用する場合には、まず英語環境にしておく必要がある。前述した日本語表示が可能な環境に設定されている場合は、chevus と入力して英語モードに変更しておく。日本語表示環境を構築していない場合は、処置は不要である。

起動方法は、

PED 【ファイル名】

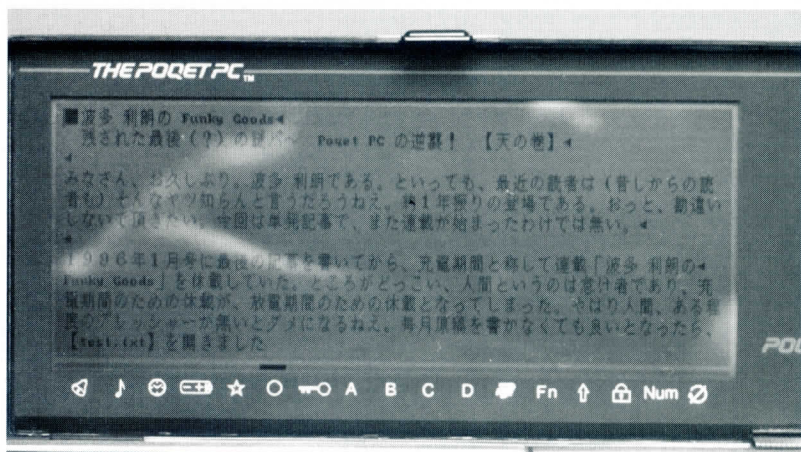
とすればよい (画面 5)。

ファイル名の指定は絶対に必要で、指定しないと PED は起動しない。システムが日本語表示環境に設定されている場合、プログラムがハングアップするため、PED の起動は PED.BAT を使用したほうが安全である。

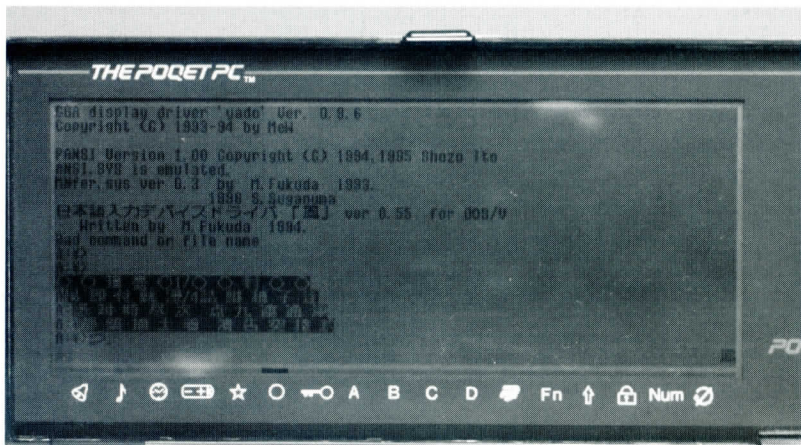
英語環境下であっても、MDA コンパチブルモードで起動した場合、プログラムは画面モードを CGA 互換モードに変更するだけで終了する。その際は、再度 PED を起動すればよい。

④ PED の制限事項に留意すること

前述したように、PED は Psion Series 3a 用の日本語エディタ、JEdit をもとに作成されている。JEdit は、その OS の仕様上、いくつかの制限事項があり、これらは PED にもあてはまる。具体的には、以下のとおりである。



画面 5 日本語エディタ PED の起動画面



画面 6 日本語 FEP「鳳」の起動画面

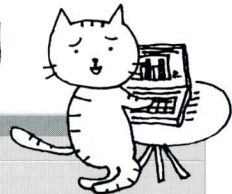


写真9 ATARI Portfolio

- ・文書ファイルの最大サイズは16KB まで
- ・辞書バッファサイズは26KB まで
- ・半角カナには未対応

エディタとしては基本的な機能しかないが、日本語の文書を作成できるというメリットは非常に大きい。

なお、Madame Fatale 氏は、本エディタのほかに、CGA-PC 汎用の PED (PEDCR110.LZH) や、ATARI Portfolio 専用のエディタ (PEDA0106.LZH) も作成している。

しかし、ATARI Portfolio (写真9) などというマシンを、いったい何人の人間が知っているだろうか？ このようなマシンのエディタまで作成してしまうとは、ホントに変な廃人である。

さて、次回の「残された最後の(?) 謎バ〜機 Poqet PCの逆襲! ——地の巻」では、Poqet PCとモデムを使用して、パソコン通信やインターネットにアクセスする方法について述べる予定である。

パソコン通信用ソフトウェアとしては、KTX (Km-TermX) が使用できる。またインターネットへの接続には、PPP接続用ドライバとしてEtherPPP Ver. 1.9.49 beta が、またメールソフトとしてD-Mail Ver.2.2が使用できる。

FEPとしては、前述したように「鳳」が利用できるため、その組み込み方法についても述べる予定である(画面6)。

ところで、僭越ながら筆者もホームページを立ち上げた(画面7)。とはいってもまだ暫定的なものであり、ほとんどコンテンツが入っていない状況である。

「謎バ〜機」についても各機種を紹介していきたいのだが、つくり込む時間がないというのが現状である。まあ、そのうち充実させるといことで、勘弁していただきたい。

ちなみにURLは下記のとおりである。ド暇な御仁がおられたら、アクセスして見ていただきたい。

【URL】 <http://www2e.meshnet.or.jp/~catty/index.html>



画面7 「波多利朗」のホームページです。よろしく！